

## 介護福祉士が担う地域活動と役割について

The Role of a Certified Care Worker in Community Activities

福永宏子\*・岡村友美\*\*・久留須直也\*

Hiroko Fukunaga, Tomomi Okamura, Naoya Kurusu

\*鹿児島女子短期大学      \*\*鹿児島県介護福祉士会

高齢化率の高い地域でこれから持続可能な地域共生社会の構築のために、介護福祉士が担うべき地域での役割は、地域の生活者に対して介護に関する技術や知識を住民に指導する身近な相談相手であることが明らかとなった。鹿児島県の大島郡与論町、喜界町、霧島市福山町の全世帯を対象に「介護に関するアンケート」を実施した。その結果、地域の生活者の心配や不安なことは、「具体的な身体介護に関する内容」および「自分自身の体力や精神的なこと」との結果となった。さらに地域によっては、「介護サービスが受けられない、選択できない」状況があることも明らかとなった。そのためにも住民の一人ひとりが介護に関する知識と技術をもち、お互いに支え合うことができる地域の力をつけていく必要がある。このようなことから、介護福祉士は基本理念である「個人としての尊厳の保持」および「利用者主体を軸とした自立の支援」の視点をもった地域住民に対する介護指導を行うことが求められる。

**Key words :** 介護福祉士、役割、地域生活、尊厳

Certified Care Worker, Role, Living in the community, Dignity

### 1. 研究の目的

本研究は、現在、地域で生活している人を対象に介護に関するアンケート調査を行い、介護福祉士が担うべき活動および地域で求められている役割について明らかにすることを目的とする。

地域で生活する場合、高齢や何らかの障害によって起こる介護問題は共通の課題である。これまで、三上（2019）、合津（2015）のように介護福祉士養成課程の中で、地域の人々との交流や活動に関する研究報告や、森井（2016）などの地域における多職種連携に関する研究はある。しかし、介護福祉の専門職である介護福祉士が、その専門性を用いて地域での役割を果たすことに関する研究はほとんどない。今回、離島という地理的環境から外的支援を受けにくい地域と、鹿児島県の中央に位置し、鹿児島県の状況に近い地域で同様の調査を行うことにより、その地域独自の課題及び地域共通の課題を明らかにする。そのことにより、地域生活での介護に関する課題を効果的に解決するための方法の検討を行う。

その人らしく安心した生活を継続するための課題を明らかにし解決方法を明確にすることが、介護福祉士が地域での役割をもって活動するための方針をより具体的かつ有用に推進できると考えた。さらに、これから進行する少子高

齢社会に対応するためにも、年齢や障害の有無に関係なく安全に安心した地域生活を可能にする「地域共生社会」の実現に向け、地域の力を高めていくには、地域の社会資源としてのサービスや制度のみならず、住民一人ひとりが介護に関する知識や技術を習得することも重要な社会資源の一つになると考える。

#### 1.1 介護福祉士の位置付け

介護福祉士は、1987年に制定された社会福祉士及び介護福祉士法（以下、法）により定められた介護・福祉分野の国家資格である。法では「介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うこと」と定義している。

2007年の法改正では、「社会福祉士又は介護福祉士は、社会福祉及び介護を取り巻く環境の変化による業務の内容の変化に適応するため、相談援助又は介護等に関する知識及び技能の向上に努めなければならない」と資質向上の責務も加えられた。この改正では、介護福祉士養成課程のカリキュラムの変更をはじめ、介護福祉士の役割や専門性の定義についても改正され、介護福祉の専門職としての役割を確立したといえる。さらに、その後も介護人材にかかる

課題（若年者人口の減少、介護ニーズの高度化・多様化等）を踏まえ、介護人材とそれに関する介護業界の構造の転換及び介護人材の質的確保についての議論が進められた。「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」（2017年、社会保障審議会社会福祉部会福祉人材確保専門委員会）の報告を受け、介護福祉士養成課程のカリキュラムは、さらに改正が行われた。

また、介護福祉の専門職である介護福祉士には、現場のケアの提供者の中で中核的な役割を果たすことが求められるとともに、「認知症高齢者の増加や高齢単身世帯・高齢者夫婦のみの世帯の増加、世帯構成の変化、社会経済状況の変化、障害者の社会参加や地域移行の推進による地域で暮らす障害者の増加などに伴う生活支援も含めた介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応できる必要がある」と、より介護の課題解決は介護福祉士の役割とされた。

このようなことから、介護福祉士として、地域での活動として担う役割を検証し明らかにする必要がある。

## 1.2 求められる介護福祉士像

2007年の法改正時には、「求められる介護福祉士像」12項目が示され介護福祉士としての役割が明示された。さらに「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」（2017年、社会保障審議会社会福祉部会福祉人材確保専門委員会）の報告では、従来の求められる介護福祉士像を10項目に再編し、倫理性を保持し、10項目のスキルを身につける必要性があることとした。また、この新しい「求められる介護福祉士像」（図1）は、高い倫理性の基に、介護福祉の専門職としての役割が明確化されたと同時に、「地域の中」での役割が明示された。



公益社団法人 日本介護福祉士会HPより抜粋

図1 求められる介護福祉士像

牛田（2018）の『求められる介護福祉士像の12項目の実践調査』では「自立支援を重視し、これからの介護ニーズ、政策にも対応できる」「施設・地域（在宅）を通じた汎用性のある能力」「心理的・社会的支援の重視」「関連地域の基本的な理解」「高い倫理性の保持」の5項目が「あまり

できていない」という傾向が示唆されている。

また、岡村（2020）の『求められる介護福祉士像の10項目の実践調査』では実務以外の活動で「介護のニーズの複雑化・多様化・高度化に対し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる」「地域の中で施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる」「制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる」の3項目に対し、「あまりできていない」という傾向が示唆されている。

このことから、地域や社会的ニーズ、制度に対しての実践意識の低さが表出され、実務以外での地域との関わりや活動の不足が生じていると推察できる。このことから介護福祉士として、地域での活動として担う役割を検証し、明らかにする必要があると考える。

## 1.3 高齢社会を取り巻く現状と地域共生社会の実現に向けた課題

2020年国勢調査では、総人口に占める65歳以上人口の割合は 前回の調査26.6%から28.6%に上昇している。

高齢化の将来推計では、2045年には全国平均は、36.8%にまで上昇すると見込まれている。しかし一方で、総人口は減少傾向となっている。このことは、65歳以上人口を15～64歳人口で支える割合が減少することを意味しており、2020年は2.1人であったのに対し、2045年には1.4人となり、現役世代の負担は増加すると見込まれている。

国の高齢社会対策の基本的枠組は「高齢社会対策基本法」に基づいている。そこで定められた「高齢者対策大綱」（2018年3月閣議決定）では、図2のような3つの基本方針と分野別の基本的施策を定めている。

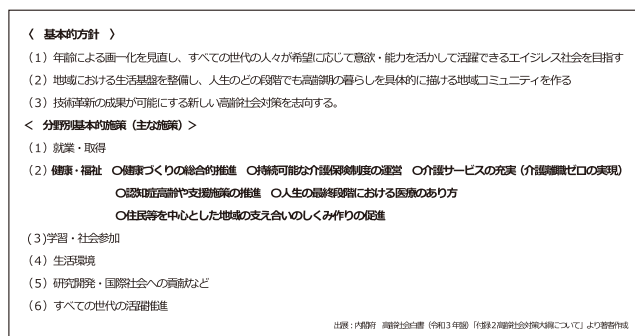


図2 高齢社会対策大綱の基本方針と分野別基本施策

「健康・福祉」の分野において、「介護サービスの充実」と「健康づくりの総合的推進」が示された。このことを実現するためには、地域での生活を継続するために、地域で生活している人に対し、介護に関する指導や教育などの専門的指導が必要になると考えられる。このことから、地域

の状況に応じた介護に関する課題を解決するための仕組みを構築すると同時に、一人ひとりが問題を解決する力をつけることが、介護福祉士が専門職として活動を行う役割があるといえる。

地域共生社会とは、「子供・高齢者・障害者等すべての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる社会」(図3)のことである。この実現をはかるために、社会福祉法などの一部を改正する法律(令和2年法律第52号)が施行された。概要は図3に示す通りとなる。

相談支援など一体的に執行する仕組みづくりや、地域の特性に応じた認知症施策や介護サービス提供体制の整備などが求められている。

地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律(令和2年法律第52号)の概要	
改正の趣旨	地域共生社会の実現を図るため、地域住民の複健化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な福祉サービス提供体制を整備する観点から、市町村の包括的な支援体制の構築の支援、地域の特性に応じた認知症施策や介護サービス提供体制の整備等の推進、医療・介護のデータ基盤の整備の推進、介護人材確保及び業務効率化の取組の強化、社会福祉連携推進法人制度の創設等の所要の措置を講ずる。
改正の概要	1. 地域住民の複健化・複合化した支援ニーズに対応する市町村の包括的な支援体制の構築の支援 【社会福祉法、介護保険法】市町村において、既存の相談支援等の取組を活かしつつ、地域住民の抱える課題の解決のための包括的な支援体制の整備を行う。新たな事業及びその財政支援等の規定を創設するとともに、関係法務の規定の整備を行う。 2. 地域の特性に応じた認知症施策や介護サービス提供体制の整備等の推進 【介護保険法、老人福祉法】① 認知症施策の地域社会における総合的な推進に向けた国及び地方公共団体の努力義務を規定する。 ② 市町村の地域支援事業における関連データの活用を努力義務を規定する。 ③ 介護保険事業(支援)計画の作成に当たり、当該市町村の人口構造の変化の見通しの勘案、高齢者向け住まい(有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅)の現状及び今後の見通し等の勘案、有料老人ホームの設置状況に係る都道府県・市町村間の情報連携の強化を行う。 3. 医療・介護のデータ基盤の整備の推進 【介護保険法、地域に於ける医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律】① 介護保険とセブテリウム等の遠隔医療情報に加え、厚生労働大臣は、高齢者の状態や提供される介護サービスの内容の情報を、地域支援事業の情報の提供を求めることができると規定する。 ② 医療保険とセブテリウム等の遠隔医療情報や介護保険とセブテリウム等のデータベース(介護DB)等の医療・介護情報の連携精度向上のため、社会保険診療報酬支払基金等は介護保険者番号の履歴を活用し、正確な連携に必要な情報を安易に提供し得ることを定めることとする。 ③ 社会保険診療報酬支払基金等の医療機関等情報に補助事業に、当分の間、医療機関等が行うオンライン資格確認の実施に必要な物品の調達・提供の業務を追加する。 4. 介護人材確保及び業務効率化の取組の強化 【介護保険法、老人福祉法、社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律】① 介護保険事業(支援)計画の記載事項として、介護人材確保及び業務効率化の取組を追加する。 ② 有料老人ホームの設置等に係る届出事項の簡素化を図るための見直しを行う。 ③ 介護福祉士等就業促進事業への就業促進給付に係る限り5年間の経過措置を、さらに5年間延長する。 5. 社会福祉連携推進法人制度の創設 【社会福祉法】社会福祉事業に取り組む社会福祉法人やNPOの法人等を社員として、相互の業務連携を推進する社会福祉連携推進法人制度を創設する。

図3 地域共生社会の実現に向けて

図3 地域共生社会の実現に向けて

地域共生社会は、これまでの制度や分野を超え、一人ひとりの暮らしを地域で創造することであり、様々な領域を超え専門性を融合することで実現に近づいていくものである。介護福祉士は、高齢者支援をはじめ、障害のある人の生活を支援していくために、地域特性を把握し、地域が必要としている役割を認識し複合的に支援していくことが求められる。

#### 1.4 鹿児島県と対象地域の状況

鹿児島県は、2020年国勢調査によると、総人口に占める65歳以上人口の割合は、32.5%となっており、全国平均を3.9ポイント上回り高齢化が進んでいる実態が浮き彫りとなった。さらに今回の対象地域(表1)でみると、大島郡与論町(以下、与論町)は35.0%、大島郡喜界町(以下、喜界町)は40.4% 霧島市は28.0%であり、離島では高齢化が進んでいる実態が明らかとなっている。

介護保険者別の第1号被保険者に占める要介護(要支援)認定者の割合(表2)は表2に示す通り地域によって大きな差はない。しかし、保険者別介護サービス別の給付

表1 市町村別65歳以上の人口

市区町村名	総数	65歳以上	65歳以上
	(人)	(人)	(%)
喜界町	6,629	2,678	40.4
与論町	5,115	1,792	35.0
福山町	4,515	2,018	44.1
霧島市	123,135	34,494	28.0
鹿児島県	1,588,256	516,756	32.5
全国	126,146,099	36,026,632	28.6

表2 保険者別第1号被保険者に占める要介護(要支援)認定者の状況

		与論町	喜界町	霧島市	鹿児島県
保険者別第1号被保険者に占める要介護(要支援)認定者の状況	65歳以上(人)	1,806	2,730	34,846	513,542
	要介護認定者数(人)	296	429	6,233	100,476
	割合(%)	16.4	15.7	18.3	19.6

表3 保険者別介護サービス別の給付額割合

		与論町	喜界町	霧島市	鹿児島県
保険者別介護サービス別の給付額割合	居宅系	15.2	49.2	42.1	38.9
	地域密着型	9.6	13.3	26.4	25.3
	施設	75.2	37.5	31.5	35.8

割合(表3)をみると、与論町では、居宅系のサービスの利用が他の町と比較すると非常に少ない。一方で施設サービスが75.2%と大きな割合を占めている。離島の与論町、喜界町は、地域密着型サービス給付の割合が低い。これは表4-1に示す通り事業所数が少ないことが要因であるといえる。

霧島市福山町(以下、福山町)にある事業所等は少ないが、保険者である霧島市には表の通り多くの事業所等があるため、サービス利用(表4-1、表4-2)については、与論町や喜界町のように離島で1島1行政区のような特徴のある地域より利用できるサービスの選択肢は広がる。

## 2. 研究の方法

本研究は、現在、地域で生活している人を対象に介護に関するアンケート調査を行い、介護福祉士が担うべき活動および地域で求められている役割について明らかにすることを目的としたものである。

研究の対象の地域を鹿児島県内の1島1行政区の島である与論町、喜界町と、福山町の3町の世帯に対し、アンケート調査表を送付し回答を求めた。調査表の送付にあたっては、与論町役場住民福祉課、与論町社会福祉協議会、喜界町保健福祉課、霧島市長寿・障害福祉課の協力と



表4-1 介護サービス施設・事業所数

高齢者			与論町	喜界町	福山市	霧島市
地域入 密所 着系 サ ー ビ ス	介護老人福祉施設（特別 養護老人ホーム）	施設数	1	1	1	13
		定員	55	80	90	718
	介護老人保健施設	施設数	1	0	0	4
		定員	100	0	0	280
	指定介護療養型医療施設	施設数	0	1	1	2
		定員	0	18	5	8
	介護医療院	施設数	0	0	0	2
		定員	0	0	0	79
	認知症対応型共同生活 介護事業	施設数	1	1	1	24
		定員	18	9	9	351
	小規模多機能型居宅介護	施設数	0	1	1	16
		定員	0	50	0	243
居 宅 系 サ ー ビ ス	訪問介護		1	2	1	31
	訪問入浴		1	1	0	1
	デイサービス		1	3	2	49
	通所リハビリテーション		1	1	1	18
	訪問看護ステーション		0	0	1	16

表4-2 医療機関数

医療機関		与論町	喜界町	福山市	霧島市
入院ができる医療機関	施設数	1	1	3	20
	一般病床数	49	40	152	438
	療養病床数	32	49	116	833
診療所 クリニック		1	2	1	82

後援により、2021年7月下旬～11月上旬の期間で、各自治会長を通じてアンケート調査表を配付し調査への協力を求めた。アンケート調査表は回答後、筆者へ返信用封筒にて郵便で返信するとした。

アンケート調査の質問項目は、基本属性のほか（１）家族介護の経験（２）介護に対しての不安と考え（３）介護への興味とイメージについての大きく３つのカテゴリーに分けた。回答は、選択式と自由記述式を用いた。

基本属性は、「性別」「年齢」「地域」「職業の雇用形態」の４つの質問を設けた。（１）家族介護の経験は、家族介護の実態を把握し、経験者の意識について把握する目的で、「家族介護の経験」、「相談相手」を選択式で、「大変だった（だと思う）こと」を自由記述で回答を求めた。（２）介護に対しての不安と考えは、具体的に自分自身に介護についての考え方の傾向を把握する目的で、「介護をする上での不安なこと」、「介護を受ける場合どうするか」、「最期はどこで迎えたいか」について選択式で回答を求めた。（３）介護への興味とイメージは、地域住民が介護福祉士に対してどのような理解やイメージを持っているかを知る目的で、「仕事に対してどのように思うか」「介護の仕事は何か」を選択式で回答を求めたこととした。

回収した調査票のデータ分析は、Microsoft EXCEL2019

を使用した。

## 2.1 倫理的配慮

調査対象地域の行政担当者に対し、研究協力依頼書を用い、研究の目的・内容を説明し、了承および後援の承諾を得た。また、当該地域住民に対しては、調査結果の使用方法、匿名性の確保、調査を拒否する権利があること、研究に同意しない場合でも不利益は生じないことについて文書で説明を行った。本調査は、共同研究筆頭者の研究である「与論町の住民の力を活用した「生活の支え合いづくり」活動の構築支援に関する研究」の関連調査として、所属する期間の研究倫理審査委員会の審査・承認を得たうえで実施した。

## 3. 調査の結果

### 3.1 調査の結果

本調査では、地域住民に対し、調査の趣旨を書面で理解していただいた上で３町合計7,507世帯へ配布し、合計1,037通の回答を得た。回収率は14.2%となった。各町の結果は表５の通りである。

表５ アンケート調査配布数・回収数

	配布世帯数	回収済み	回収率(%)
喜界町	3,507	426	12.1
与論町	2,182	343	15.7
福山市	1,818	268	14.7
計	7,507	1,037	14.2

### （１）家族介護の経験

「今後介護をする（予定）人」（以下「今後する人」と「現在介護をしている人」（以下「現在している人」）の「主な相談相手」についての問いに対し、３町ごとに比較を行った。

与論町（図４）は、「家族・親戚」との回答が、「今後する人」47.8%、「現在している人」38.4%ともに最も多かった。次に多い回答は、「今後する人」は、「介護福祉士」12.2%、「現在している人」は、「ケアマネジャー」31.4%となった。保健師と民生委員は、「今後する人」1.5%に対し「現在している人」0%となった。役場との回答は、「今後する人」11.2%から「現在している人」8.1%であった。介護福祉士と回答は、「今後する人」12.2%、「現在している人」5.8%であった。

喜界町（図５）は、「家族・親戚」との回答が、「今後する人」43.2%、「現在している人」35.6%ともに最も多かった。次に多い回答は、「今後する人」は、14.1%、「現在している人」27.8%で「ケアマネジャー」となった。民生委員は、「今後する人」7.3%に対し「現在している人」0%

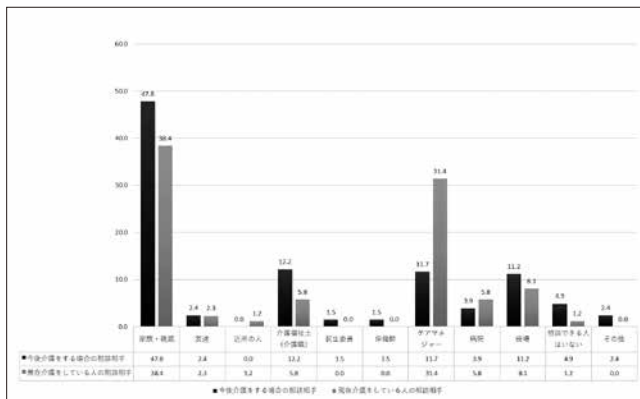


図4 「主に誰に相談するか」 与論町

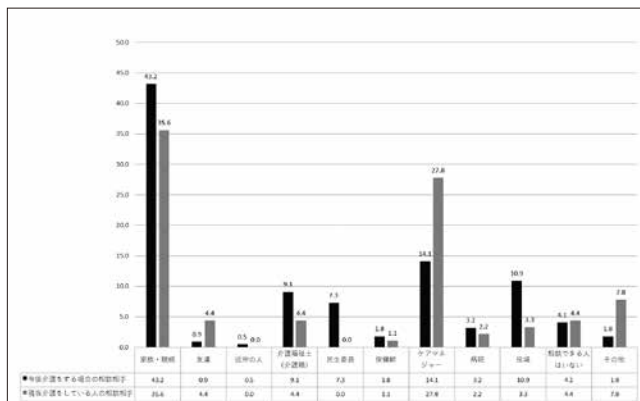


図5 「主に誰に相談するか」 喜界町

となった。役場との回答は、「今後する人」10.9%から「現在している人」3.3%となった。介護福祉士との回答は、「今後する人」9.1%、「現在している人」4.4%であった。

福山町(図6)は、「家族・親戚」との回答が、「今後する人」40.9%、「現在している人」41.3%ともに最も多かった。次に多い回答は、「今後する人」15.6%、「現在している人」32.5%で「ケアマネジャー」となった。民生委員は、「今後する人」7.8%に対し「現在している人」0%となった。役場との回答は、「今後する人」10.4%から「現在し

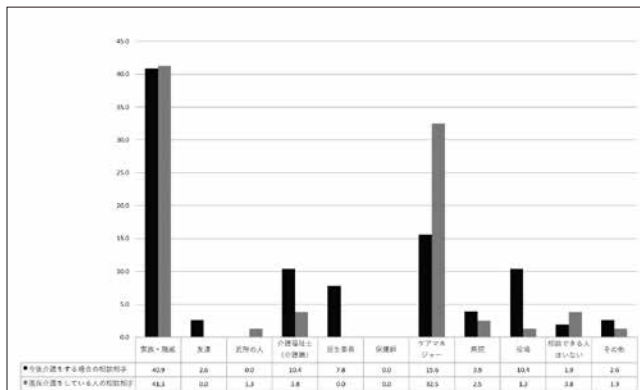


図6 「主に誰に相談するか」 福山町

ている人」1.3%となった。介護福祉士と回答したものは、「今後する人」10.4%、「現在している人」3.8%となった。

各町ともに、「現在している人」では、相談相手は家族・親戚が最も多く、次のケアマネジャーを加えると、与論町69.8%、喜界町63.4%、福山町73.8%と高い割合を占めた。

与論町は、他の2町と比較し民生委員と回答するものが少ない結果であった。また、一方で、「相談できる人はいない」は、喜界町では「今後する人」が4.1%、「現在している人」が4.3%と割合の変化ほとんどはなかったが、福山町では「今後する人」1.9%より「現在している人」3.8%と割合が高くなる傾向がみられた。介護保険制度等の利用によって、相談する場所ができるが、それに至らないもしくは利用していない場合は、一人で抱え込んでいる可能性があると考えられる。「現在利用している人」においては民生委員と回答したものはすべての町でなかった。介護福祉士については、3つの地域すべてで「今後する人」から「現在している人」では減少した。

## (2) 介護に対しての不安と考え

「介護を行う上で心配・不安なこと」(図7)について選択肢より1つ選択する問いは、項目に対して3町の比較を行った。

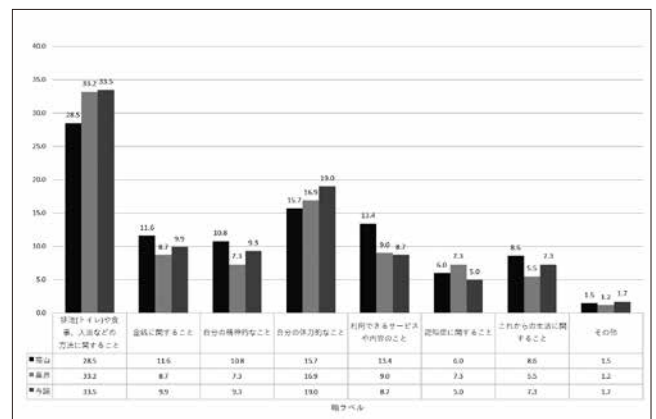


図7 介護を行う上で心配・不安なこと

3町ともに、「排泄(トイレ)や食事、入浴などの方法に関すること」与論町33.5%、喜界町33.2%、福山町28.5%と最も多く、次に「自分の体的なこと」与論町19.0%、喜界町16.9%、福山町15.7%であった。しかし、3番目に多かったのが、「利用できるサービスのこと」喜界町9.0%、福山町13.4%であったのに対し与論町は「金銭に関すること」9.9%、「自分の精神的なこと」9.3%の次に「利用できるサービスのこと」であった。一方で「利用できるサービスのこと」は、与論町8.7%、喜界町9.0%に対し福山町は13.4%と心配・不安と感じる人が多い結果となった。これ

は、サービスを選択できる地域と、サービス量が限られている離島の地域では、介護負担が自分自身あるいはサービスであるかの違いであると推察できる。一方で「認知症」の回答は低い結果となった。

「高齢や障害などの理由で日常生活が不自由になった場合どうするか」(図8)の質問では、「施設や病院で介護サービスを受ける」が与論町63.7%、喜界町64.5%、福山町63.8%で最も多く、次に「自宅で介護サービスを受け、家族に介護してもらう」与論町15.8%、喜界町18.5%、福山町16.2%となり、サービスを受けながら生活を継続したいと考えるが、与論町79.5%、喜界町83.0%、福山町80.0%と多い結果となった。さらに、子どもに介護をしてもらうとの回答は、与論町と福山町2.6%、喜界町3.3%であり、子どもに介護を希望しているものは非常に少ない結果となった。

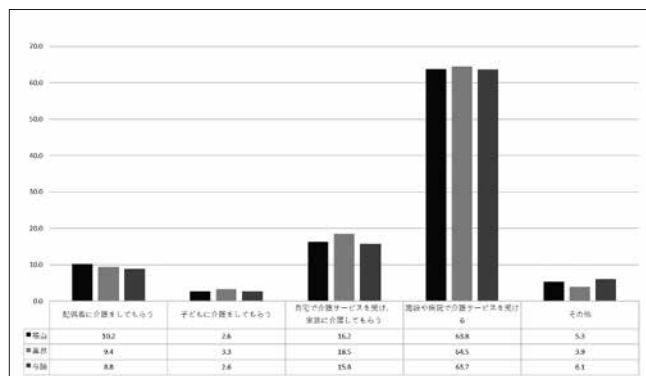


図8 日常生活が不自由になった場合どうするか

「どこで最期を迎えたいか」(図9)の質問では、「自宅」との回答は、与論町70.3%、喜界町56.5%、福山町56.7%と最も多かった。その中でも、与論町は約70%と他の2町と比較しても自宅での最期を希望しているが多い結果となった。「病院」との回答は、与論町は12.2%であるのに対し福山町は26.6%、喜界町20.4%となった。また、「施設」との回答は、与論町は7.0%であるのに対し、喜界町17.4%、福山町12.7%と与論町は他の2町と比べ、自宅以外を希望するものが少なかった。

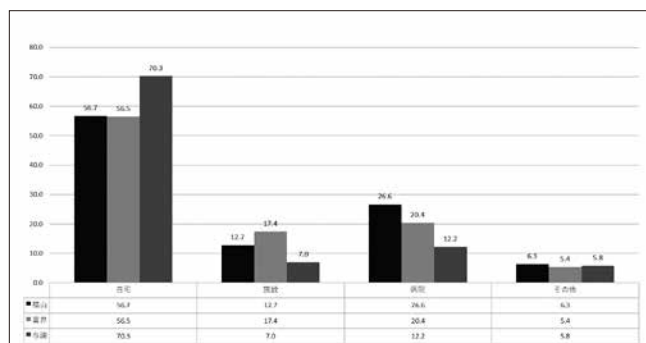


図9 どこで最後を迎えたいか

### (3) 介護への興味とイメージ

「仕事として介護をしてみたいと思うか」(図10)の質問に対して、与論町71.7%、喜界町79.8%、福山町70.5%が「介護をしたいとは思わない」と回答した。

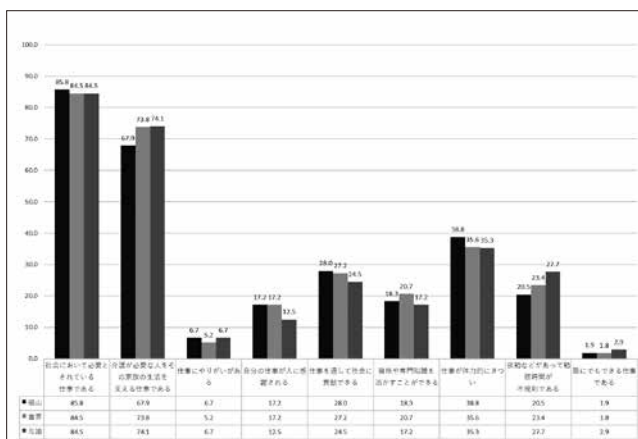


図10 介護の仕事についてどう思うか

「介護の仕事に対してどのように思うか」というイメージを確認する質問では、「社会において必要とされている仕事である」との回答が、与論町84.5%、喜界町84.5%、福山町85.8%と3町ともに一番多かった。次に多かった回答として「介護が必要な人とその家族を支える仕事である」が、与論町74.1%、喜界町73.8%、福山町67.9%であった。

## 4. 考察

### (1) 家族介護の経験

「介護の困りごと等に対し主に相談する相手」が、家族・親戚が最も多かったことは、介護は個人の問題ではなく家族の問題としてとらえている人が多いといえる。「ケアマネジャー」は、「今後する人」よりも「現在している人」が多かった。また、民生委員および役場は、「今後する人」では主な相談相手と回答があったが、「現在している人」では、回答が少なくなった。このことから、「現在している人」の主な相談相手は、専門的に介護に関する相談ができる相手を求めていると考えられる。これは、「介護を行う上で心配・不安なこと」の選択肢である「介護の方法」「金銭に関すること」「利用できるサービスや内容」などの回答が多い結果から、専門的知識や、技術、方法などの解決ができる人を必要としているからであるといえる。さらに、介護者の「体力的」「精神的」な負担に対する回答も多かった。「現在している人」は、相談相手に対して単に身体介護などの介護技術だけでなく、これまでの経験や知識を基にしたアドバイスを求めているといえる。ケアマ

ネジメントとは、高齢者・障害者等が心身機能の障害から生じる生活課題の克服のために、必要な生活資源を適時・適切に結びつける方法（黒澤：2006）でもある。ケアマネジャーは、生活のしづらさに対して、心身機能の維持・改善、福祉の面からのケアの必要性を判断し、生活の支障や負担に対して全人的に理解をし、総合的に支援につなげる役割を持つ。また、相談相手として必要とされ、かつ目的を果たすためには、このほかにも他機関や職種との連携や協働する能力も必要とされると考える。自分だけでは解決できないことを的確に他の制度やサービス、支援につなぐことも重要な役割である。つまり、ケアマネジャーは、「現在している人」にとって、介護に関する専門的知識や技術、方法など解決の方法の相談ができる存在であるといえる。

「介護福祉士」の回答は、3町すべてで、「現在している人」よりも「今後する人」の方が多かった。これは、まだ相談相手や今後どのように生活が変化するかわからない状況の中では、身近にいる介護福祉士が、介護の相談相手として必要とされる。これは、「介護に対して不安・心配」なことの最も多かった「排泄（トイレ）や食事、入浴などの方法に関すること」が、現在は介護までは至らない場合でも生活の中で発生したときのために、生活者が「具体的な対応や解決方法を事前に知っておきたい」等の介護に関する興味や関心のある情報を得るための相手として、身近な介護福祉士と選択したのではないだろうか。つまり、介護福祉士は、地域では、民生委員と同様に「今後介護をする人」にとっては身近な存在であることといえる。

与論町では「相談できる相手がいない」は、「今後する人」が「現在している人」よりも少ない結果であった。しかし、喜界町と福山町では、「今後する人」よりも「現在している人」の方が多く逆の結果となった。相談できる相手がいないということは、一人で抱え込んでいる家庭もしくは、介護者の存在が地域にあると推察される。岐阜県中津川の「認知症まもりのわ SOS ネットワーク」は当初、家族、地域関係が薄れ、人間関係がとりにくかった。そこで、住民の横のつながりと縦のつながりの強化をすることで、住民の意識改革がおこり、地域における介護の力を高める活動へと発展している。地域に一人でも抱え込んでしまう介護がなくなるためにも、民生委員や介護福祉士をはじめとした近隣の見守り活動や、身近に相談できる相手や場所を創ることが重要ではないだろうか。

## （２）介護に対しての不安と考え

介護をするうえで心配・不安なことでは、「排泄（トイレ）や食事、入浴などの方法に関すること」がもっとも多

かった。介護が必要になる前、もしくはサービス利用までは至らないが軽微な介護が必要になったときに、生活者が必要な方法や考え方を知る手段が、地域の中に少ないのではないかと推察される。つまり、家庭に介護がある生活となった場合、生活者は介護サービスを選択できない状況では、本人が「自助」で行う、あるいは家族が「互助」で介護を行うこととなる。今回の調査対象の3町のように高齢化率が高い地域では、徐々に「自助力」「互助力」も低下していき、生活の限界が予測される。

また、「介護が必要になった場合どうするか」では、3町すべてで、「施設や病院で介護サービスを受ける」が多く、次に「自宅で介護サービスを受け、家族に介護してもらう」が多かった。これは、家族のみから介護を受けるのではなく、専門的なサービスを受けながら家族の負担の軽減を考え、関係性を維持し生活を継続していくことの希望が多いと推察される。しかし、与論町および喜界町では、介護サービスの社会資源は不足している状態にある。希望する介護を受けて生活するためには、求められるサービスを増やすことも必要である。一方では、鹿児島県長島町獅子島は、これまで福祉施設がなく、調査や住民の意向調査を受け、2015年に小規模多機能型施設を建設した。しかし、2018年に廃止となった事例がある。原因の一つとして、施設経営に見合うだけの利用者の確保ができなかったことを示唆している（高橋：2019）。単に、介護サービスを増やすことが地域にとって有効であるかは、長期的な視点で、十分検討する必要がある。

さらに、「どこで最期を迎えたいか」では、3町すべてで、「自宅」が多かった。介護が必要な時には、「施設や病院で介護サービス」を受けるが多かったが、自分の最期は自宅と、介護の場面と最期の場所では異なる結果となった。やはり、これまでの暮らしの中で家族と一緒に過ごしたいという気持ちや馴染みの環境や思い出の回顧の表れかもしれない。一番ヶ瀬（1998）は、当時のスウェーデンのホスピスと日本の病院を比較し、生活福祉の中の介護の中で、「その人の尊厳にふさわしい福祉サービスを保障すること。これが本当の意味での福祉であり、本当の意味での人間の社会だろう」と述べ生活の中での介護は、最後まで人間の尊厳を保持できる環境が必要であると示唆している。現在は、ホスピスをはじめ、馴染みの家財道具を施設に持ち込むなどが可能になっているところもある。仮に、すべての施設や病院でその人の尊厳にふさわしい介護が実践できれば、最期を迎える場所に変化できるのではないか。そのためには、介護福祉士の基本理念である「個人と



としての尊厳の保持」および「利用者主体を軸とした自立の支援」の視点をもった介護実践を行うことが求められる。

今回の結果から、介護サービスが受けられない、選択できない状況を最小限に抑える必要がある。そのためにも住民の一人ひとりが介護に関する知識と技術をもち、お互いに支え合うことができる地域の力をつけていく必要がある。それには、民生委員や介護福祉士をはじめとした近隣の見守り活動、介護に関する学習の機会や身近に相談できる相手や場所を構築する必要がある。これが、地域共生社会が目指している相談支援など一体的な執行を行う仕組みづくりや、地域の特性に応じた認知症施策や介護サービス提供体制の整備など推進につながるといえる。

### (3) 介護への興味とイメージ

介護の仕事に対するイメージは、「社会において必要とされている」「介護が必要な人とその家族の生活を支える仕事」が多かった。介護の社会的役割と仕事の内容に対する社会の認知度は高いことが明らかとなった。しかし、「実際に仕事としてしたいと思わない」が多かったことから、社会から求められる役割は職業選択の動機にはならないといえる。また、介護の仕事に対するマイナスイメージの「体力的にきつい」「夜勤などがあって勤務時間が不規則である」は、職業選択の動機として判断のひとつとなるといえる。

介護の仕事は、対人援助であり専門性は生活の継続、連続性の中にあるため、「夜勤」や「体力」などの負担がなくなるものではないが。しかし、現在施設においては、介護ロボットなどによる業務内容の改革も進んでいる。介護に対して、社会的意義とやりがいや興味をもち、介護に従事する人材を増やすことも、介護福祉士としての役割となるといえる。

### (4) 介護福祉士が地域で求められている役割

介護福祉士が地域で果たす役割は、専門的知識及び技術をもって、生活全体のアセスメントを行い、心身の状況に応じた介護の知識や方法を、本人及びその介護者に対して指導やアドバイスを行うことが役割である。さらに、ケアマネジャーや他専門職種と連携や協働して、地域での生活の継続を可能にすることも役割である。そのためにも介護福祉士は、他職種連携、協働の視点を持つことが求められる。

今回の調査では、地域で生活している人を対象に介護に関するアンケートを実施した。「現在している人」と「今後する人」では、相談する相手の違いがあることが明らかとなった。さらに、介護に関して心配・不安なことは、当初、地域共生社会の創造での推進の視点として、国は、「地

域の特性に応じた認知症施策や介護サービス提供体制の整備などの推進」を掲げているが、認知症を介護の心配や不安なことの上位にならない結果となった。このことは、認知症の症状を知ることではなく、周辺症状に対して行う身体介護への不安、つまり、介護者の体力的、精神的な負担との関連の方が強いことを意味していると考ええる。そこで、介護福祉士の役割は、単に顕在化されている課題に対しての指導だけでなく、潜在化している課題、認知症等との関連も含めた生活全体のアセスメントができる能力を持たなければならない。さらに、介護福祉士は、地域において、民生委員や役場のように、介護に関して身近な専門の相談相手という役割もある。

また、「介護を受ける場所」と「最期を過ごす場所」には違いがあることも明らかとなった。生活者は、生活の場面によって環境の変化を求めているとすれば、単に介護サービスなどの社会資源を増やすのではなく、地域全体がどこでも介護ができる体制の構築が求められると考える。

今回、明らかとなった役割の実践が、「介護のニーズの複雑化・多様化・高度化に対し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる」「地域の中で施設・在宅にかかわらず、本人が望む生活を支えることができる」「制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる」の3項目を含めた「求められる介護福祉士像」として果たす役割となるといえる。

## 5. 今後の課題

今回の調査で、介護福祉士が地域で果たす役割が明確になったといえるが、それぞれの地域に応じた地域共生社会を構築するには、今回の調査で各町においての差が明らかとなった「介護を受ける場所と最期を迎える場所」「介護に関しての心配・不安なこと」などの項目について、現在の状況をさらに詳しく調査する必要がある。

今回の研究に際して、アンケート配布、後援をいただいた、与論町町民福祉課、与論町社会福祉協議会、喜界町保健福祉課、霧島市長寿・障害課にご協力に際して感謝申し上げます。

## 6. 引用・参考文献

- 1) 三上ゆみ 松本百合美他「高尾地域交流事業における学生・地域住民の相互支援活動の効果の検証」新見公立大学紀要 第40巻 pp.105-110、2019
- 2) 合津千香「介護福祉学生が「地域について学ぶ意義と課題」松本短期大学研究紀要第22号 pp25-33、2013



- 3) 森井将弘「ひたちなか市における介護予防・日常生活支援総合事業に向けた取り組み：市・通所事業者との連携、通所型／訪問型サービスへの移行にむけて」理学療法学 Supplement、2015
- 4) 内閣府 高齢社会白書（令和3年版）
- 5) 鹿児島県／保健・福祉施設一覧（令和3年10月1日）（pref.kagoshima.jp）15 December 2021
- 6) 厚生労働省「介護人材に求められる機能の明確化とキャリアパスの実現に向けて」<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000179736.html> 17 December 2021
- 7) 牛田篤「特別養護老人ホームにおける介護福祉士のキャリア形成と実践に関する研究 ファーストステップ研修と求められる介護福祉士像12項目の意識調査から」『福祉健康科学研究』13巻、43 2018
- 8) 岡村友美「求められる介護福祉士像のイメージと中核人材養成の課題に関する研究、2020
- 9) 古橋貞二郎他「介護の「地域力」を高める中津川恵那の実践」岩波書店、2011
- 10) 黒澤貞夫「生活支援学の構想」川島書店 pp177、2006
- 11) 高橋信行「獅子島の地域ケアー小規模離島における地域包括ケアのあり方」地域総合研究 第46巻第2号 pp77-92、2019
- 12) 一番ヶ瀬康子「生活福祉の成立」ドメス出版、1998

（2021年12月23日 受領／2022年1月6日 受理）

## 資料. (アンケート調査表)

**「介護福祉士が担う地域活動と役割に関する調査研究」**

**地域の皆様へご協力をお願い**

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。この度、地域で介護福祉士が担う役割とその課題を明らかにするためのアンケート調査を行う、研究チーム代表 鹿児島女子短期大学 生活科学科 講師 福永宏子と申します。

これからの超高齢社会を支えるために介護職の役割は大きく、中でも介護福祉士は、介護に関する指導や教育の役割も持っています。しかし、介護福祉士が、地域での活動の機会が少ないと考えております。

そこで、本アンケートは、地域の方が自宅で介護している場面での困り事や不安なことを明らかにすることを目的としております。アンケートの結果をもとに、地域の方々のより良い介護環境を整えるために、求められる介護福祉士の役割を考えます。

お忙しい中大変恐縮ではございますが、研究の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

**・今回の研究調査については、町 町社会福祉協議会のご協力をいただき実施しております。**

・ご回答は、本紙を返信用封筒にいれ、無記名でご返信いただけますようお願いいたします。

・可能な限り、到着後2週間以内にご投函ください。

・**ご返信をいただくことをもって、本研究への同意とさせていただきます。**

**【ご回答に関してのお願い】**

- ・本調査は無記名式アンケートとなっておりますので、記入できる範囲でお願いいたします。
- ・アンケートは10問あります。所要時間は約10分程度です
- ・調査結果はこの研究目的以外には使用しません。調査結果は学会等で発表しますが、その際にも匿名性を守ります。調査データは厳重に管理するとともに保管期間終了後はすべて適切に破棄いたします。ご回答いただかない場合も何ら不利益になることはございません。
- ・本研究は、鹿児島女子短期大学南九州地域科学研究所の審査を受け実施しております。

**【本調査についてのお問い合わせ先】**

〈研究者代表〉 鹿児島女子短期大学 生活科学科 生活福祉専攻  
講師 福永 宏子 (ふくなが ひろこ)  
E-mail : hfukunaga@jkajyo.ac.jp  
電話 : (代表) 099-254-9191 (直通) 099-254-9193 (413)

アンケート【各質問について、当てはまるものに○または文字をご記入下さい】

問1. 現在、家族（同居、別居含む）の介護をしていますか。どれか1つ選んでください。

1. している（していた） 2. していない 3. 近いうちに介護をする可能性がある

↓ 問2へすすむ      ↓ 問3へすすむ

問2. 問1で「1. している」と答えた方に質問です。

Q1. 介護の困りごと等に対し主に誰に相談していますか。どれか1つ選んでください。

1. 家族・親戚 2. 友達 3. 近所の人 4. 介護福祉士（介護職） 5. 民生委員 6. 保健師  
7. ケアマネジャー 8. 病院 9. 役場 10. 相談できる人はいない 11. その他（ ）

Q2. 介護をして大変だと思う（大変だった）ことを教えてください。

1. 排泄（トイレ） 2. 食事 3. 入浴 4. 移動・移乗 5. 認知症の介護  
6. 夜間の介護 7. その他（ ）

Q3. 介護をして大変だと思う（大変だった）ことを具体的に教えてください。

問3. 問1で「2. していない3. 近いうちに介護をする可能性がある」と答えた方に質問です。

今後、介護の困りごと等に対し、主に誰に相談したいと思いますか。どれか1つ選んでください。

1. 家族・親戚 2. 友達 3. 近所の人 4. 介護福祉士（介護職） 5. 民生委員 6. 保健師  
7. ケアマネジャー 8. 病院 9. 役場 10. 相談できる人はいない 11. その他（ ）

問4. 全員の方に質問です。

介護をする上でどのようなことが心配・不安ですか。どれか1つ選んでください。

1. 排泄（トイレ）や食事、入浴などの方法に関すること 2. 金銭に関すること  
3. 自分の精神的なこと 4. 自分の体的なこと  
5. 利用できるサービスや内容のこと 6. 認知症に関すること  
7. これからの生活に関すること 8. その他（ ）

問5. 全員の方に質問です。

仕事として介護をしてみたいと思いますか。どれか1つ選んでください。

1. してみたい 2. したいとは思わない 3. 現在している（していた）

Q1. 問5で「1. してみたい」と回答した方に質問します。

その理由を教えてください。

Q2. 問5で「2. したいとは思わない」と回答した方に質問します。

その理由を教えてください。

問6. 全員の方に質問です。

ご自身が高齢や障害などの理由で日常生活が不自由になった場合どうしますか。どれか1つ選んでください。

1. 主に配偶者に介護をしてもらう（してもらっている）  
2. 主に子供に介護をしてもらう（してもらっている）  
3. 主に自宅で介護サービスを受け、家族に介護をしてもらう（受けている）  
4. 施設や病院でサービス（介護）を受ける（受けている）  
5. その他（ ）

問7. 全員の方に質問です。

「介護」の内容には、どれが当てはまると思いますか。3つ選んでください

1. 排泄（トイレ）の介助 2. 食事の介助 3. 入浴の介助  
4. 掃除 5. 洗濯 6. 買い物  
7. 調理 8. 着替えの手伝い 9. 外出や移動などの介助  
10. 見守り 11. はなし相手 12. 病院の付き添い  
13. 認知症の方の世話 14. 寝たきりの人の世話 15. 障害者の世話

うらまで質問があります

問8. 全員の方に質問です。

あなたは介護について学んだことはありますか。

1. ある 2. ない 3. わからない

問9. 全員の方に質問です。

あなたは介護の仕事についてどう思いますか。最もあてはまるものを3つ選んでください

1. 社会において必要とされている仕事である  
2. 介護が必要な人をその家族の生活を支える仕事である  
3. 仕事にやりがいがある  
4. 自分の仕事に人に感謝される  
5. 仕事を通して社会に貢献できる  
6. 資格や専門知識を活かすことができる  
7. 仕事が体的にきつい  
8. 夜勤などがあって勤務時間が不規則である  
9. 誰にでもできる仕事である

問10. どこで最期を迎えたいですか。どれか1つ選んでください。

1. 自宅 2. 施設 3. 病院 4. その他（ ）

**【ご自身についてお聞かせください】**

1. 男性 2. 女性

〈年齢〉

1. 15～34歳 2. 35～49歳 3. 50～64歳 4. 65～79歳 5. 80歳以上

〈住んでいる自治会（町内会・集落）〉

〈現在の職業の雇用形態について教えてください〉

1. 正社員 2. パート・アルバイト 3. 自営業 4. 仕事についていない